

# きんもくせい

編集目標 人間尊重の教育を求めて

平成23年 学校教育だより

May **5** 第309号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会  
発行・埼玉県富士見市教育委員会  
電話・049-251-2711 (内線622)



1年生を迎える会～「ドキドキドン1年生」を歌う新入生～ 写真提供／みずほ台小学校

## 電 気

南畑小学校 六年

渋谷 圭佑

朝から晩まで大活やく

いつも明るく笑ってる

仕事が終わるのは深夜

短い時間だけど、おやすみ

なさい

朝になると、早速仕事

みんなの心を光らせる

朝から晩まで大活やく

# 自分の言葉で表現するために

「中学生になると、授業中に自ら発表することをしなくなる」というのは、本当でしょうか。一部の意欲的な生徒の発表によって進行する授業から、少しでも全員が参加できる、参加した実感を持てる授業にするために試行錯誤してきました。私は、次の観点から、国語の授業づくりを行っています。

- 一、授業をパーツに分ける。
- 二、声に出して読む。
- 三、発表の型を教える。
- 四、学年・学級経営とリンクする。

国語は、全ての教科の基盤となると言われています。自分の言葉で表現できる力が各教科で求められています。また発表ができる環境というのは、集団づくりの観点から見ても、とても価値あることだと考えます。

私の授業での実践を、学年・学級経営との関わりも交えながら、ご紹介したいと思います。

# 生徒を育てる

指導者 水谷中学校教諭 伊藤 圭一

## 一、授業をパーツに分ける

授業は、漢字練習、辞書引き競争、音読、教科書本文の読解という流れで展開します。暗唱や百人一首も随時取り入れます。教科書本文の読解以外は、ごく短時間で取り組めるものです。生徒一人ひとりが自分の得意な場面で活躍できるの、意欲的に授業へ参加できるようにします。一時間の授業の中で、学びの実感できる場を設けて、生徒自身の自己肯定感も育めるのではないかと考えています。

## 特別支援教育

# 伝え合うために

富士見特別支援学校教諭 湯浅 純也

川越市の小学校に五年間勤めた後、富士見特別支援学校に赴任してきた。当時はまだ『富士見養護学校』という名称だった。年度が始まり、子どもたちと初めて出会った時、どのように教えていけばよいのだろうかと、とても戸惑った。今までは全く違う環境の中で、何をしても空回りしているような気がしていた。しかし、子どもたちと過ごしているうちに不安は解

## 二、声に出して読む

人前で発表するためには、声を出す習慣を身につける必



消されてきた。言葉の出ない児童も多いが、よく見ていると、たくさんのお話を伝えてきてくれていることに気がついた。それは、表情であったり、行動であったり、声の色であったりさまざま。たくさんのお話を聞いて、こちらまでできることを全部して、使えるものを全部使え、伝えるように全力で働きかける。

『伝わる』ということは

要があります。そのために大切なのが、「音読」です。様々なバリエーションで音読をします。

- ① 追い読み
- ② 一斉音読
- ③ 一文交代読み
- ④ 丸（「。」）読み
- ⑤ たけのこ読み

これらの音読を何度も繰り返します。また生徒が飽きないように、少しずつ変化をつけながら進めます。

古典の単元では、古文の一部を「暗唱」させます。暗唱テストは必ず全員の前で行います。全員に見られている、



気持ちの良いことだ。思いが伝わったと感じた時ほど嬉しかった。そのためにもいつも子どもにとつて何かを伝えたい相手でありたいと思う。一緒に喜んでほしいんだり、共に過ごす時間を大切にすることで、そうなるのではないかと考えている。

校種を問わず、子どもにいろいろなことを伝えるために学校はあるのだと思う。そして、より伝え合うために、どのような特別な支援が必要なのかを考えるのが特別支援教育ではないかと感じている。

という緊張場を経験させるためです。

緊張場面で発揮される力が本当の力なんだよ、と語ることもあります。

このような経験が、発表することへの抵抗を少なくしていると考えます。

## 三、発表の型を教える

いきなり「自分の考えを発表しなさい。」と指示しても、生徒は困ってしまいます。そのため、その前にいくつかのステップを設けます。

### ① 発表の型を教える。

発表に自信のない生徒は、

わかる授業 = 中学校の国語科 =

# すすんで発表する



発表する内容をどう作ったらよいかわかりません。ですからこちらが型を示す必要があります。たとえば、「私は

〇〇だと考える。理由は、□□だからだ。」という文型です。板書をして書き方の例を示します。

## ②型に自分の考えを当てはめて書く

黒板を参考にしながら、空いているところに考えを書き込みます。作文では、書き出しに苦勞する生徒がいます。型を示し、あとは自分の考えを書くだけにします。こうすることで導き出したい自分の考えだけに集中できます。

## ③書いたとおりに発表をする

原稿を見ないで発表するの

## 可能性は無限大

教育随想

教育部長 今井 寛



ことを多くの子どもたちにもわかってほしいと思っております。

人生は、問題解決の連続です。様々な問題を解決していくためには、本気で一生懸命に取り組む体験や経験が必要です。ときには、失敗することもあります。しかし、失敗や挫折を乗り越えたとき、その経験が、自信につながります。その自信は、自分を大事

四月一日から教育部長を拝命いたしました。重責な職務であります。精一杯取り組みますので、よろしくお願ひいたします。

はじめに、三月の東日本大震災により被災された方々に對しまして、心よりお見舞い申し上げます。「毎日の生活当たり前のことが当たり前にできることの幸せ」を改めて感じていきます。そして、その

にする自己肯定感や有用感の育成につながります。

私は、子どもの可能性を信じていることが教育の原点だと思っております。さまざまな体験や学習を通して、いろいろなことに挑戦し、自分の可能性をどんどん広げていってほしいと思います。可能性は、無限大です。可能性を引き出し、伸ばす役割が教師の使命です。学校は、誰もが精一杯可能性に挑戦できる所です。

本市の掲げる「人間尊重教育」を目標に児童生徒八千六百八十一名のために全力を傾注していきます。

は、大人でも大変です。でも、原稿があれば中学生でも発表できます。書いてあることを読めばいいだけなので安心できます。大前提として、生徒のどんな意見でも生徒の考え方として受け止めます。

## 四、学年学級経営とリンクする

本校は全学年二学級の小さな学校です。私は学年集会でも生徒に意見を発表させることがあります。道徳では、時間内に「一人一発言」を約束としています。様々な場面を通して、意見を発表することの大切さを伝えるようにしています。

時には、発表することの価値を次のように語ります。

発表を聞くことは、自分が考えつかなかったことを仲間から教えるということなんだ。仲間の考えをもらうだけもらって、自分は何も与えないなんてずるいよね。

今、中学三年生では指名をしないで自ら立って、堂々と意見を言える生徒がたくさんいます。自分に自信を持てること、受け入れてくれる仲間がいること、どちらが欠けても成り立ちません。

中学生も自己表現したいのです。その環境を作れるのは



教師しかいないという使命感を持って、今後も日々の授業に全力を尽くそうと思えます。

指導・講評

水谷中学校校長 小野寺 巧

この実践により、本校では授業で積極的に発表する生徒が着実に増えてきている。生徒の気付きや思いを学習の流れに取り込むことにより考えられていることを明確にさせ、それをわかりやすくスキルを教え、さらに、その発表を受け入れる聞き手を育てるという意図的・計画的な取組が確実に成果を挙げている。

今後、言語活動充実のための「責任教科」担当としての指導性を発揮してくれることを大いに期待している。

### 「伝統ある学び舎で新しい取組」

水谷小学校校応援団コーディネーター 高野 路子

水谷小学校は、百三十余年の歴史のある学校である。学校応援団がたち上げられてから今日、その活動もよく軌道に乗ってきたように思う。大型絵本（秋には新作発表）、図書の読み聞かせ、学習支援、植栽、清掃活動など、その内容は幅広く、また、登録メンバーも、PTA、おやじの会、泉谷子ども広場、社協など多方面の地域の方々で構成されている。校長先生をはじめ、諸先生方はお忙しい中にも関

わらず、適切で早い対応をいろいろとさせていただいていることに、感謝の気持ちと安心感でいっぱいになる。子どもたちは正直で、活発で、笑顔が絶えない。授業中、廊下を通ると、静かで落ち着いているが、行事に学校応援団として参加すると、普段の顔で仲良くなつてくれているのがたまらなく嬉しい。昔の遊びの時は、お手玉や毬つきなど昔の歌が飛び出して、自分の幼い頃にタイムスリップしてしまった。今の子どもは賢い。紙飛行機の折り方が上手で、スーツと長い間飛ばしてくれたり、お手玉を歩きながらできるようになったと、見せに来てくれたりする。

コーディネーターとして、常に出会いを大切に、青少年健全育成の環境づくりを進めていけば、行動の中から自ずと自らのすべき仕事が見えてくると思っている。

今年度は、各団体、地域が一体となって、水谷小を中心に新しい取組も考えている。



ぜひ、楽しみに待っていてください。



勝瀬小学校 6年

渡辺 眞己

6年生になった私の目標は、最高学年として勝瀬小のみんなを引っ張っていくことです。分からないこともたくさんありますが、全力で取り組みたいと思っています。そして、1年生から5年生で学んできたことを活かし、低学年の見本になれるように頑張りたいと思います。

### 6年生になって

去年の6年生に続き、よりよい学校を作っていきたいと思います。

先月、東北関東大震災がおきました。個人として大きなことはできないけれど、節電をしたり募金をしたりして、少しでも役に立てたらいいなと思います。



### 震災で思うこと

南畑小学校PTA 飯竹 洋子

三月十一日、東北地方を襲った大地震と大津波。そしてその影響で起きた、福島県の原子力発電所の放射能洩れによる汚染問題は、これまでの私達の生活を一変させる出来事になってしまった。現地から遠く離れている我が街でもガソリンの供給不足による長蛇の列が出現したり、計画停電の実施に伴い、乾電池がなくなったり、放射能汚染により、

ペットボトルの水までもが、あつと言う間に店頭から消える騒ぎとなった。私も少なからず、その内の仲間にならざるを得なかった一人だ。震災から二ヶ月余りになるが、今でもまだその影響は続いている。店頭から、納豆やヨーグルトが消えた時に、息子達にどうしてそうなののかと訳を説明すると、息子達なりに理解し、我慢し

息子達なりに理解し、我慢し



てくれた。被災地で避難所生活をしている子どもたちに比べたら、申し訳ないほどだ。天災はいつ起こるか分からないし、また、突然やってくる。数々の自治体や団体で行われる災害時の訓練や、各学校でも実施している避難訓練は、考えてみると、いざと言う時に大事なもののばかりだ。今まで毎年のことだからと、軽く考えて参加していた自分の姿勢を恥ずかしく思う。これからは、より一層真剣に訓練に取り組みきたい。

余談だが、震災後、我が家で飼っている猫に対して、息

子達がやさしく接している光景を度々目にする。動物であれ植物であれ、一つしかない命を大切にしていきたい。



家庭教育

親子で成長

水谷中学校保護者 河村 明彦



我が家には五人の子どもがいるが、子どもたちの行動をみていると兄弟が同じようなことをする。

どのようなことかといえば、近くにある物を取る際に、自分で取りに行かず下の兄弟に取らせるのだ。また、上の兄弟と同様に、二歳の娘までもが、ソファに横になり、テレビを見ている。

何故、そのようなことをす

るのか考えてみると、何のことはない。私のしていることを真似しているのである。これは、ほんの一例に過ぎず、子どもたちをよく観察してみると、私や家内の行動と重なることが非常に多いことに気付かされる。また、兄弟間で差はあるものの、性格や感情も大まかなところで親に似ている。意識はしていないのであろうが、子どもは親のこと

を本当によく見ている。そして、見たことを無意識のうちに行動に移している。

そういったことから、親の行動が子どもに与える影響は非常に大きい。であるからして、私自身親として自分の行動に重い責任がある。子どもが成長していくのと同様に、自分自身も成長し、言動また心のありようを改めていかなければならない。

そうした親の姿を見せることが、また子どもの成長に繋がるものと信じている。親子共々、互いに高め合い共に成長していきたい。

心のこもった挨拶ができる子に

鶴瀬西三丁目西町会長 市川 倫生

小学校の入学式、校長先生のお話に「たくさんお友達を作りましょう、挨拶をしましょう、自分のことは自分でしましょう」とあった。一年生は、みな真剣に聞いていた。登下校の見守り、子ども教室での交流など、児童との挨拶の機会は多い。「おはよう」「さようなら」と言っても、黙って我関せずと素通りしていく子、下を向いて行ってしまう子がかなりいる。

現代社会では、お互いのコミュニケーションが欠け、地域の人間関係が希薄になっていると言われている。だからこそ、児童が、将来コミュニケーションに必要な挨拶ができる人になってほしい、と願っている。

昨年、私が児童の下校時見守りをしているとき、二年生の男子に「ご苦労様です。さようなら。」と言われ、胸にジーンと熱いものを感じたことがあった。この子はどんな家庭でどんな風に育てられているのだろうか……。

親近感を持つてもらおうと笑顔で言葉をかけても、応答がないとき、虚しさに陥ることがしばしばあった。しかし、近頃児童と遊ぶ機会が多くなってきた。いろいろと考えさせられる。そもそも挨拶というのは、強制されてするものではなくて、自然と身について心から出るものなのだと思います。挨拶ができない理由は、恥ずかしい、めんどう、知らない人だから、恰好つけてると言われはしないかなど、色々あると思うが、我々が諦めずに、根気強く声をかけていくことが肝要とも思う。一方、親や先生も普段から心のこもった挨拶に心がけ、手本を見せること、親子



# 学校 TODAY

## 特集

三月十一日に「東日本大震災」があり、いつもとはどこか違う気持ちで迎えた春の訪れとなりました。

桜の花がほぼ満開に近く咲き誇る中、市内のすべての小・中・特別支援学校で入学式が行われ、新しい年度がスタートしました。この時期は、「新入生歓迎会」や「校舎見学」、中学校では「部活動オリエンテーション」など、新入生を迎えるの様々な行事が行われます。新しい学校での生活に不安と期待でいっぱいの新入生たち、前年度より引き締まった表情の在校生たちの様子をご覧ください。

学校での子どもたちの様子を写真で紹介する『学校 TODAY』。次号からは少し衣替えをして紹介していきますので、ご期待ください。



高等部朝マラソン

高等部では、体力づくり、健康な体づくりのために約1・2kmを毎朝走っています。新入生の頃は、大変きつく完走できない生徒も、「継続は力なり」で、2年生になる頃には、十分に走り切れる力がついていきます。



春風集会

本校では、毎年4月に新しいクラスになり、仲間意識を高めるために、クラス紹介の会である「春風集会」を行っています。今年も、各学部、学年で工夫を凝らして、自分のクラスを紹介することができました。



初心者大歓迎！

部活動オリエンテーションでの一コマ。どの部活動も、緊張しながらも精一杯アピールしていました。「先輩としてののりりしさは伝えられましたか？」



目下、校歌練習中！

新入生歓迎会のお礼に校歌を歌うことになりました。わずかな時間でしたが、一生懸命練習しました。「先輩たちに私たち新入生の歌声が響くといいな。」

富士見特別支援

# 新年度を迎えて

本郷中

〓 市教育相談室より 〓

適応指導教室「あすなる」のご案内

「あすなる」とは、富士見市教育相談室（富士見特別支援学校三階）に設置されている適応指導教室の名称です。

この教室では、学校へ行きたいけれど行けない市内の小・中学校に在籍する不登校児童生徒の、自立と学校復帰を支援しています。

「あすなる」は、午前九時から正午まで開室していますので、そのお子さんの状態に応じて自由に利用することができます。本やパズル等を持参するなど、等身大の自分のままで過ごせる居場所です。もちろん、勉強をしたいお子さんには支援します。今はまだその気が起きないお子さんには無理はさせませんし、当然、強要もいたしません。

このように、「あすなる」は、一人一人の不登校児童生徒の状態に合った通い方や過ごし方を本人の意思を尊重し、保護者の方ともじっくりと時間をかけて一緒に考えていきます。

学校から離れ、活動の機会が少なくなってしまう児童生徒がいろいろな体験ができるように、「あすなる」では、様々な行事を行っています。



### 仲よくしようね

「1年生を迎える会」では、学年帽を振っての紹介やCMのかえ歌で楽しく工夫した出し物に、1年生は大喜び！お礼に歌をプレゼントしました。はやくお兄さん・お姉さんみたいになりたいな。



### 入学おめでとう

4月8日は入学式。6年生のお兄さん・お姉さんに優しく手を引かれ、緊張した様子で先生のお話をしっかり聞くことができました。

これからつるせ台小の仲間としてよろしくおねがいします。

## つるせ台小



### 演技でアピール！部活動オリエンテーション

4月14日、1年生のための部活動オリエンテーションが行われました。どの部も3分間の待ち時間をフルに生かして、普段の練習や活動の一端を披露しました。1年生は先輩たちの演技に部活動への期待が高まりました。



### 思いやり推進活動の第一歩「あいさつ運動」

富士見台中生徒会の特色は「思いやり推進活動」。その第一歩として、クラスのリーダーである学年委員会による朝の「あいさつ運動」がスタートしました。明るいさわやかなあいさつの声が徐々に大きくなっていきます。

## 富士見台中



### あおぞら学級の2年目がスタート

新しいお友達を迎えて8名の児童でスタートしました。外国語活動では、AETの先生と楽しく発声したり、クイズに答えたりいきいきと活動できました。「大すきあおぞら」を合言葉にみんなで楽しい一年にしていきます。



### 1年生を迎える会

かわいい1年生が、6年生と手をつないで元気いっぱいに入場！上級生から学校を紹介する歓迎の言葉やメダルのプレゼントをもらい、1年生もお礼の挨拶と歌を歌いました。

いよいよ、ふじみ野小の仲間入りです。

## ふじみ野小

### 〈開室期間と主な行事〉

・一学期 四月八日から七月八日

始業式、芋苗植え、田植え、種まき、大掃除、避難訓練、難波田城公園内古民家での宿泊体験活動、学校給食センターでの昼食会、終業式等

・二学期 九月一日から十二月九日

始業式、稲刈り、豊島園への遠足、おにぎりパーティー、音楽会見学、花壇作り、芋掘り、本室での宿泊体験活動、柿もぎ、終業式等。

・三学期 一月十日から三月九日

始業式、餅つき、避難訓練、大掃除、お別れ会、通室証書授与式等。

以上のような行事の他、それぞれのお子さんと在籍学校との連携を大切にし、そのお子さんの状態や気持ちを十分に配慮しながら徐々に学校復帰に向けた様々な取り組みを行っています。

また、通室生の保護者との面接も定期的に行っています。

通室を希望する方は、担任の先生に申し出ていただくか、本室まで直接ご連絡ください。

問合せ／教育相談室

Tel〇四九一二五三一五三三三

担当者 指導員 深田 林

# 教育委員会だより

◎平成23年度富士見市教育行政方針

- 1 教育委員会の活性化
- 2 信頼される学校づくりの推進と確かな学力の育成
- 3 豊かな心をはぐくみ、健やかな体を育成する教育の推進
- 4 一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進
- 5 平和で豊かな地域社会実現のための生涯学習・社会教育の推進
- 6 文化的風土をつくる郷土遺産の継承・活用の推進
- 7 気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しむ環境づくりの推進

平成23年度の学校教育だより「きんもくせい」の編集委員の先生方をお知らせします。今年度も富士見市の教育理念「人間尊重」の教育を基本とし、その実現を求めて編集に携わっていただきます。よろしくお願いいたします。

- 編集委員長 忽滑谷 美恵子 (水谷東小学校校長)  
 編集副委員長 三浦 光生 (水谷中学校教頭)  
 編集委員 松波 徳美 (水谷小学校主幹教諭)  
           大 畠 仁 (南畑小学校教諭)  
           福井 智子 (西中学校教諭)  
           高 原 剛 (勝瀬中学校教諭)  
           田 島 弘 (富士見特別支援学校教諭)

## 《運動会(体育祭)♪音楽会(合唱祭)等の日程》

学校名	運動会等	雨天のとき	♪音楽会等
鶴瀬小	9月24日(土)	9月28日(水)	11月 4日(金)
水谷小	9月24日(土)	9月27日(火)	11月 5日(土)
南畑小	9月17日(土)	9月18日(日)	11月 9日(水)
関沢小	9月18日(日)	9月21日(水)	11月11日(金)
勝瀬小	6月 4日(土)	6月 7日(火)	11月 4日(金)
水谷東小	5月21日(土)	5月25日(水)	11月 5日(土)
諏訪小	5月21日(土)	5月24日(火)	11月12日(土)
みずほ台小	9月24日(土)	9月25日(日)	11月11日(金)
針ヶ谷小	5月28日(土)	5月31日(火)	11月 5日(土)
ふじみ野小	6月 4日(土)	6月 7日(火)	11月 5日(土)
つるせ台小	9月24日(土)	9月25日(日)	11月 5日(土)
富士見台中	9月17日(土)	9月20日(火)	10月29日(土)
本郷中	9月17日(土)	9月21日(水)	11月10日(木)
東中	5月28日(土)	6月 1日(水)	11月 2日(水)
西中	9月17日(土)	9月21日(水)	11月11日(金)
勝瀬中	5月28日(土)	5月29日(日)	10月25日(火)
水谷中	9月17日(土)	9月21日(水)	11月16日(水)
富士見特別支援	5月28日(土)	5月29日(日)	11月26日(土)



## 輝く星

南畑小学校教諭

天野 和彦



始業式。三年二組の子どもたちとの出会いをうれしく思いました。それは、少し緊張しながらもしつかりと話を聞く子どもたちの瞳が、きらきらと輝いていたからです。

ある日「先生、テントウムシをふでばこの中に入れてたらたまごをうんじゃったよ。」と、筆箱の中の黄色い卵を真剣な顔で見せてくれました。そんな素直で元気な子ども

また、「トイレのサンダルがバラバラだったから直しておいたよ。」と話をしてくれます。何に対しても一生懸命取り組む姿に感心する毎日です。

満開の桜が美しく咲き誇る中、新年度がスタートしました。

四月に赴任をし、少しドキドキしながら迎えた

自然豊かな環境の南畑小。翌週から元気に校庭で遊ぶ子どもたちは、教室に戻ると、手のひらいっぱいにした桜の花びらや、タンポポを見せてくれます。

たちに、「下駄箱のみんなの靴のかかどが、そろっているとかっこいいよね。」と話す時、次の日から、丁寧にかかとをそろえる姿がありました。

三年生として二週間、まだ始まったばかりですが、新しいことをどんどん吸収する子どもたち、そんな子どもたちの輝く瞳に支えられながら、私も一緒に成長していきたいと思えます。

## 編集日記

はじめに、東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

本年度、小学校は学習指導要領の全面実施となり、来年度は、中学校・特別支援学校が全面実施となります。新学習指導要領では、「生きる力」の育成が一層重要となっております。

子どもたちの教育は、家庭、地域が相互理解と連携を図りながらの取組が大切です。

三〇周年を迎えた本紙は次号から装い新たに、新編集委員一同、皆さんと共に教育を考え、さらに親しみのもてるわかりやすい内容に編集していきます。

さて、三月十一日の震災発生時には、各学校においても日頃の訓練を生かし、適切な避難ができたと聞いています。が、今後も災害発生に備えて児童生徒の安全を確保する観点から防災計画、訓練を検討していく必要があります。

ご家庭におきましても、災害時についての家族の約束事や近所の方々との連携の在り方などを具体的に話題にして考えてみるのもよいですね。

(忽滑谷)